

ぶら多摩クラブ・ウォーキング 79 2022
(すこし番外編) 中央区、台東区、墨田区、足立区



隅田川橋巡り

10月14日(金) JR総武線浅草橋駅東口改札前10:00集合

コース：浅草橋駅⇒両国橋⇒旧安田庭園⇒東京都復興記念館⇒蔵前橋⇒厩橋⇒駒形橋⇒吾妻橋⇒隅田公園(旧水戸藩下屋敷跡)⇒牛嶋神社⇒言問橋⇒桜橋⇒白髭橋⇒隅田川神社⇒水神大橋⇒千住大橋⇒千住大橋駅
約11km

昼食は隅田公園あたりで弁当
申込期限：10月11日(火)



桜橋

言問橋

隅田公園

牛嶋神社

駒形橋

吾妻橋

厩橋

蔵前橋

東京都復興記念館

スタート：浅草橋駅

旧安田庭園

両国橋



ゴール：千住大橋駅

水神大橋

隅田川神社

白髭神社

白髭橋

台東区

I はじめに

今回は隅田川の橋に注目し、両国橋より千住大橋まで歩く。その行程途中で公園、歴史的な神社などに立ち寄る。

古くは千住より上流を「荒川」、浅草近辺を「浅草川」、駒形近くは「宮戸川」、両国より下流を「大川」と呼んでいたとのこと。昭和51年（1976年）より北区岩淵水門で荒川と分岐したところから下流を「隅田川」と称する。

江戸時代はわずか5橋だけが架けられていたが、江戸幕府の軍事上の問題から橋の架設には積極的でなく、渡船がその役割をしていた。

- (1) 千住大橋【文禄3年（1594年）】
- (2) 両国橋（大橋）【万治2年（1659年）】
- (3) 新大橋【元禄6年（1693年）】
- (4) 永代橋【元禄11年（1698年）】
- (5) 吾妻橋【安永3年（1774年）】

隅田川の渡しは昭和39年（1964年）「佃の渡し」を最後に全廃されてしまった。明治40年（1907年）頃、隅田川には18ヶ所の渡し場があったといわれる。もっとも古いのは「橋場の渡し」で、承和2年（835年）太宰官符に「渡し船を2隻から4隻にふやせ」と記録にあるように、今の浅草北部は平安時代、すでに水路と陸路の要衝の地であったことがしのばれる。

II 見どころ

（特に明記していないところは台東区、墨田区、荒川区のウェブサイトを参考）

両国橋

東京都中央区東日本橋と墨田（すみだ）区両国を結ぶ橋。明暦の大火（めいれきのたいか）（1657）後、江戸の市街地拡大のため本所、深川を開き、1659年（万治2）に架橋したのが最初。その後、数度の火災、水害で修改築し、1904年（明治37）鉄橋に架け換えられ、1932年（昭和7）改修したものが現在の両国橋である。橋は初め大橋といったが、新大橋の架橋後、隅田川（すみだがわ）が武蔵（むさし）と下総（しもうさ）両国の境界であったことから二州橋ともいい、のち正式に両国橋と改めた。（日本大百科全書より）

旧安田庭園

もと常陸国笠間藩主本庄因幡守宗資により元禄年間（1688～1703）に築造されたと伝えられる。かつては隅田川の水を引いた汐入回



遊式庭園として整備される。明治維新後は、旧備前岡山藩主池田侯の邸となり、次いで安田善次郎氏の所有となった。氏の没後大正11年東京市に寄附された。関東大震災後、太平洋戦争を経て東京都から墨田区に移管され、全面的改修を行い、復元、開園している。現在は、ポンプにて人工的に潮入が再現されている。

東京都復興記念館

東京都復興記念館は、関東大震災の惨禍を永く後世に伝え、また官民協力して焦土と化した東京を復興させた当時の大事業を永久に記念するため、震災記念堂（現東京都慰霊堂）の付帯施設として昭和6年（1931年）に建てられた。震災の記念品などは当初震災記念堂に展示する予定であったが、昭和4年（1929年）に開催された帝都復興展覧会に出品された資料も加わり、その数が膨大となったことから予定を変更して「復興記念館」を建設し、展示することとしたもの。その後、第二次世界大戦の空襲により東京都下で亡くなった方々の遺骨を震災記念堂に合祀したため、記念館においても、東京空襲の被害や当時の状況、復興に向けた取り組みを伝える写真、図表などの展示を加えた。平成11年（1999年）には東京都の歴史的建造物に選定された。（記念館Webサイトより抜粋）

蔵前橋

「蔵前橋通り」にあり、橋名は地名に由来している。蔵前の地名は、江戸幕府の御米蔵で大阪・京都の蔵とともに三御倉（みつおくら）と呼ばれていた「浅草御蔵」がこの地にあったことに由来している。かつては、この辺りに「富士見の渡し」と呼ばれた渡し舟があった。



厩橋

「春日通り」にあり、橋名は江戸幕府の御米蔵にある米を運ぶ荷駄馬用の馬小屋があったことに由来している。初めて架橋されたのは1874年（明治7年）。かつてこの辺りは「御厨河岸（おんまいがし）」と呼ばれており、その河岸に「御厨（おんまい）の渡し」と呼ばれた渡し舟があった。



駒形橋

「浅草通り」にあり、橋名は、西詰にある「駒形堂」に由来している。駒形堂は、浅草寺の本尊である観音像が、この辺りから引き上げられたことにより建てられたと言われている。かつては、この辺りに「駒形の渡し」と呼ばれた渡し舟があった。

吾妻橋

「雷門通り」にあり、江戸時代に隅田川で架橋された最後の橋である（1774年/安永3年）。当初、大川橋と呼ばれていたが、1876年（明治9年）の架け替えの際に吾妻橋と改名された。かつては、この辺りに「竹町の渡し」と呼ばれた渡し舟があった。



隅田公園（旧水戸藩下屋敷跡）

一帯は1693（元禄6）年水戸藩が浜屋敷の代替地として幕府からもらった敷地の一部。現在は池を中心とした庭園の一部が残されており、そばに昭和13年に建てられた“水戸徳川邸旧跡”の石碑が立っている。また庭園の一隅には、1844（弘化元）年ここに蟄居させられていた藤田東湖が綴った正気歌の碑がある。公園となったのは大正12年、関東大震災の帝都復興事業の一環で。後藤新平の主導により公園として整備されたもの。



牛嶋神社

貞観年間(859～879)頃、慈覚大師円仁が当地に来た際に、須佐之男命の化身の老翁から託宣を受けて創建した。明治以前は「牛御前社」と呼ばれており、本所の総鎮守であった。かつては隅田公園の北側にあったのが公園の工事のため昭和7年に現在の場所に移った。9月15日には例大祭が催されている。境内の「撫牛」は自分の悪い部分と牛の同じ部分を撫でると病が治るといふ信仰で、肉体だけでなく心も治ると

いう心身回癒の祈願物として有名。他にも本殿前には全国的に珍しい三輪鳥居（三つ鳥居）と「狛牛」がある。

言問橋

「言問通り」に接しており、橋名は、在原業平の『名にし負はば いざ言問はむ都鳥 わが思ふ人はありやしやと』との歌に由来すると言われている。かつて、この橋の上流には「竹屋の渡し」、下流には「山の宿の渡し」（別名：枕橋の渡し）と呼ばれた渡し舟があった。





桜橋

台東区と墨田区の姉妹提携事業として1985年（昭和60年）に完成したX型の橋で、隅田川唯一の歩行者専用橋である。春には兩岸の隅田公園に見事な千本桜が咲き、たくさんの花見客でにぎわいを見せる。

白髭橋

「明治通り」にあり、橋名は墨田区にある白髭神社に由来している。初めて架橋されたのは1913年（大正3年）。隅田川では、最も古い渡し舟と言われている「橋場の渡し」のあった場所で、平安時代の歌人である在原業平が渡ったとも言われている。

隅田川神社

この神社の創建については不詳であるが、言い伝えによれば源頼朝が創建したものと伝えられる。もとの名を浮島神社といい、古くは水神社、水神宮、浮島宮などとも呼ばれ、「水神さん」として親しまれてきた。1872年、現社名に改名した。地域の鎮守神であるとともに隅田川一帯の守り神でもあり、水運業者や船宿など、川で働く人たちの信仰を集めたほか、「水神」の名から水商売の人々にも信仰された。社殿前には狛犬のかわりに石亀がおかれている。（wikipediaより）



水神大橋

橋名は東岸にある「隅田川神社（水神宮）」に因む。創架は1989年（平成元年）3月。橋の組み立てを陸上で行い、橋桁を台船に乗せて干満の差を利用して橋脚に乗せるという方法を利用した。付近の汐入公園、東白髭公園は東京都の防災拠点として位置づけられており、そのため双方を繋ぐ連絡橋として千住汐入大橋と共に計画された。当初は歩行者専用橋で、接続する道路の整備が完了した1996年（平成8年）7月10日より自動車道路供用が開始された。もともと「水神の渡し」という渡船場があった場所でもある。（wikipediaより）



千住大橋

千住大橋は、徳川家康が江戸に入って初めて架けた橋で、架橋は文禄3年（1594）。

架橋当初は「大橋」と呼ばれていたが、万治2年（1659）に両国橋が架橋されてから「千住大橋」と呼ばれるようになった。足立区側に設けられた千住宿は、次第に千住大橋を越えて荒川区側の小塚原町・中村町まで拡大し、千住下宿と呼ばれた、明治時代に千住宿南組と呼ばれるようになり、南千住の地名の由来となった。この辺りは、江戸の北の玄関口でもあり、松尾芭蕉の「奥の細道」への旅立ちの地でもある。また、歌川広重の「名所江戸百景・千住乃大はし」にも描かれた橋である。現在の鉄橋（下り）は、昭和2年（1927）に架け替えられたブレースドリブ・タイドアーチ型の鉄橋で、歴史的な土木構造物として注目されている。



Ⅲ 参考 隅田川に架かる橋（Asahi-net より抜粋）

| 上流からの位置順 | 名称 | 架橋年和暦 ； 初代 | 架橋年西暦 ； 初代 | 架橋年和暦 ； 現在 | 架橋年西暦 ； 現在 | 長さ (m) | 幅 (m) | 構造形式 |
|----------|------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------|----------|---|
| 1 | 千住大橋 | 文禄3年 | 1594/11/01 | 昭和2年 | 1927/12/12 | 91.6 | 24.2 | 鋼タイドアーチ橋 |
| 2 | 水神大橋 | 平成元年 | 1989/03/01 | 平成元年 | 1989/03/01 | 157 | 17 | 径間連続ニールセンローゼ桁橋 |
| 3 | 白鬚橋 | 大正3年5月 | 1914/05/01 | 昭和6年8月8日 | 1931/08/08 | 168.8 | 22.1 | 下路式ブレースドリブドタイドアーチ橋 |
| 4 | 桜橋 | 昭和60年4月11日 | 1985/04/11 | 昭和60年4月11日 | 1985/04/11 | 169.45 | 20 | 連続鋼X形曲線箱桁橋（連続曲線鋼箱桁） |
| 5 | 言問橋 | 昭和3年2月10日 | 1928/02/10 | 昭和3年2月10日 | 1928/02/10 | 238.7 | 22 | 三径間ゲルバー鉄桁橋 |
| 6 | 吾妻橋 | 安永3年10月17日 | 1774/10/17 | 昭和6年6月 | 1931/06/01 | 150 | 20 | 3径間鋼ソリッドリブタイドアーチ橋 |
| 7 | 駒形橋 | 昭和2年6月25日 | 1927/06/25 | 昭和2年6月25日 | 1927/06/25 | 149.6 | 22 | 中央径間：中路式ソリッドリブタイドアーチ橋 側径間：上路式ソリッドリブアーチ橋 |
| 8 | 厩橋 | 明治7年10月6日 | 1874/10/06 | 昭和4年9月 | 1929/09/01 | 151.4 | 22 | 3径間下路式タイドアーチ橋 |
| 9 | 蔵前橋 | 昭和2年11月 | 1927/11/01 | 昭和2年11月 | 1927/11/01 | 173.2 | 22 | 3径間連続上路式ソリッドリブ2ヒンジアーチ 、および上路式コンクリート固定アーチ |
| 10 | 両国橋 | 万治2年、寛文元年 | 1659/01/01 | 昭和7年11月 | 1932/11/01 | 164.5 | 24 | 3径間ゲルバー式鋼鉄桁橋 |

更に、両国橋下流には順に、新大橋、清洲橋、隅田川大橋、永代橋、中央大橋、佃大橋、勝鬨橋、築地大橋がある。